

# こまざわ 経済通信

発行  
駒澤大学経済学部  
同窓会  
〒154-8525  
東京都世田谷区駒沢  
1-23-1

## 学ぶ場、学び続けられる環境へのご支援を



この4月より学部長を仰せつかりました姉齒と申します。常日頃より同窓会のみなさまには多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。ご挨拶を兼ねて経済学部の現状と今後について、2点にわたり述べさせていただきます。

まず第1に、今年度、経済学部では4名の若い教員を迎えました。機動力のある若手の先生方の積極的な取り組みによって、障がいを持つ学生にも安心して学び続けてもらう環境づくりの一環としてバリアフリー対策に取り組むための学部内の委員会を立ち上げることができました。すでに学生部への情報提供や提案、学生ボランティアを養成する講座への協力などを行っています。他大学での経験を持ち寄り、学生に身近に

接している若い先生方の力と、これまで培ってきた伝統の力とを結び付け、常に学内外に新機軸を示すことができる経済学部でありたいと思います。

第2に、前執行部の方針を受け継ぎ、ゼミ活動に注力していくことを軸にさまざまな試みを始めています。少々停滞気味であったゼミ連活動へのテコ入れを行うために、ゼミ連担当の先生には会議への常時出席や他の教員への情報提供を引き受けていただいています。おかげさまで、スポーツ大会のほか、今年度は学部を超えた全学の学生を対象としたゼミ討論会を開催することになりました。このイベントは、スポーツだけではない「アカデミックな駒澤」をアピールし、何よりも、仏教を含む多様な学部を抱える駒澤だからこそできる多面的アプローチで現代の諸問題を考えるという利点を楽しみたいという学生たち自身の提案で始められました。就活に追われ、バイトにこそ軸足を置き、キャンパスライフなど持たないという今どきの学生のイメージを大きく塗り替えるものと期待しています。同窓会のみなさまにはぜひこのような積極的な学生たちが後輩として育っていることを応援していただければと存じます。

できるだけ多くの機会を作り、同窓の皆様からのご意見を伺いたいと思っております。なにとぞ今後ともお力添えをいただければ幸いです。

### ホームカミングデーに集まろう

ホームカミングデー開催日：10月25日（日）

※詳細は、本誌8頁をご覧ください。

### 経済学部ゼミナール連合主催の学生シンポジウムにご参加を

学生たちが、ゼミ毎に日ごろの研究成果を報告します。

ぜひ研究成果をご覧にきてください。

学生シンポジウム開催日：11月15日（日）

※開催時間・場所は、経済学部ウェブサイトにて公開予定です。

# 卒業生シリーズ

## 駒澤大学日曜講座

野澤 孝大 税理士 (会計事務所勤務)

平成12年3月学部卒業

平成14年3月大学院修士課程修了

パシーン。静まり返った坐禅堂に警策の音が鳴り響く。毎週日曜日の駒沢キャンパスでは午前9時から『坐禅』と『講義』の公開講座が開かれているが、私がこの坐禅の講座に初めて参加したのは6月下旬。梅雨に入り朝から雨がポツポツと降る日だったが、坐禅堂には50名程の方が参禅しておりました。私が最後に坐禅をしたのは駒澤大学4年時に選択した坐禅の講義で、今回はその時以来実に16年ぶりのこととなりました。私が坐禅と出会ったのは駒澤大学高校在学中の仏教の授業でした。高校在学中は授業の一環として校舎屋上にある坐禅堂で坐禅を組むことがありましたが、駒澤大学経済学部に進学すると坐禅をする機会はなくなり、大学4年時に選択した坐禅の授業だけとなりました。

私は坐禅経験者といってもほとんど作法を忘れていたため、講師の先生に1から教えていただき坐禅堂内へ。説明の際に出てくる叉手、結跏趺坐、法界定印などの仏教用語が、遥か前に忘れてしまった記憶を蘇らせ、学生の頃のどこか懐かしい気持ちにもさせてくれました。

カーン、カーン、カーン。鐘の音が3回なり約40分の坐禅がスタート。体の固い私は足を半分だけ組む半跏趺坐で座りましたが、10分経つか経たないかですでに足は痺れた状態に。学生の頃も確かこんな感じで足が痺れたなと思い出しましたが、坐禅中は道元禅師の只管打坐(ただひたすらに座る)という教えに従い、何も考えないようにしたがこれもまた容易ではない。足は痛く、雑念がいろいろと浮かんできては消え、また浮び出し、慣れない姿勢で額と鼻には汗が流れ出す。長く感じた約40分の坐禅を終え、痺れた足を我慢しながら退堂。ふ〜っと大きく一呼吸。久々の坐禅の感想は、学生の頃と変わらず足が痺れて痛い。しかし終わった後はどこかすっきりとした気分になり、これは学生の頃には感じなかった不思議な感覚でした。

『坐禅』と『講義』の公開講座は1年を通じて開講されておりますが、7月中旬から9月下旬までは夏休み。私が次回参加できるのは残暑がまだ残る9月27日。今回の足の痺れに懲りずに、駒澤で過ごした学生時代を思い出しながらまた講座に参加したいと思います。



## 研究室訪問シリーズ

西村 健 (専任講師、オークション理論担当、2013年就任)



2014年度から経済学部現代応用経済学科に着任した西村健と申します。まだまだ不慣れなことは多いのですが、まわりの皆さまのお力添えを頂き、ようやく仕事が軌道に乗ってきた感があります。私の専門分野は「オークション理論」です。経済学でオークションと聞くと違和感を覚える方が多いかもしれませんが、改めて現実の経済を観察してみると、色々なモノ・サービスが「オークション」を通じて売買されていることに気付くでしょう。

例えば、公共工事や国債は入札を通じて割り当てが決まりますし、海外では電波周波数帯もオークションを通じて通信業者に販売されます。オークション理論は、1996年にノーベル経済学賞を受賞したウィリアム・ヴィックリーの先駆的研究に端を発します。1961年の彼の論文の刊行以来、理論と実証の両面からオークションに関する研究が蓄積されてきました。私自身は、オークションに関するトピックの中でも、公共調達の入札制度設計に関心を持っています。公共工事の工程ごとに入札を分割すべきか否かという問題や、総合評価落札方式と呼ばれる入札方式をどのように設計するのが調達主体にとって最適かという問題について、理論的な研究をしてきました。今後は、理論分析だけではなく、現実の入札データを用いた実証分析にも携わってみたいと考えております。特に、日本の公共工事入札では、業者間の談合がたびたび社会問題として取り上げられますので、この問題について何か政策的含意を提示できればと思っています。

私のゼミでは、二年生のときには「ゲーム理論」のテキストを輪読してもらい、三年生から徐々に卒業研究の報告に移行してもらっています。ゲーム理論とは、言うなれば、「駆け引き」を理論的に分析するための学問体系です。オークションでも当然のことながら駆け引きがありますので、その分析の基礎として用いられるのはゲーム理論です。ゲーム理論を学ぶには数学の知識が多少求められるので、数学が苦手な学生の皆さんに敬遠されることも多いのですが、私はパズルを解くような楽しさがあると思っています。卒業研究では、ゼミ生の皆さんが興味・関心を持っているテーマを自由に選んでもらい、主体的に研究してもらっています。卒業研究の報告を聞く際には、私自身、勉強させて頂くことも多く、とてもよい刺激となっています。



ゼ

ミ

紹

介

齊

藤

ゼ

ミ

齊藤 正 (教授、銀行システム論・現代銀行事情担当、1980年就任)

このゼミでは、「金融・銀行の基本問題」をテーマに、「金融・銀行の窓」を通して経済・社会、そして自分の「行きかた」を学ぶこと、具体的には、ゼミが生涯の友人との出会い、人生の羅針盤となる本との出会い、さらに自分自身との出会い、という「三つの出会い」の場になることを目指しています。

ゼミ生の多くは、「銀行に就職したい」、「株や為替に興味がある」など、金融に興味を抱いて志望してきますが、学習を進めていくプロセスにいつも苦労します。日頃、金融や銀行に関わることがほとんどない学生達にとって、初めて触れる専門用語の意味だけでなく、専門用語で語られる内容をも理解することは容易ではありません。そこで、授業では、教科書をていねいに読み進めることと並行して、話題性の高い新聞記事など、身近に起こっているトピックを取り上げながらテキストの理解を深める工夫が求められます。

本学に赴任して30数年、送り出した卒業生は数百人にのぼりますが、教育にはこれという正解は無く、試行錯誤の連続であるということを実感しています。ただ、学びの主役はあくまで学生達であるというスタンスはこれからも心がけていきたいと思ひますし、いっそう深い学びにつなげるため、できるだけ現場(現実)に触れる機会を用意してあげたいと考えています。

最近では、私が参加する研究会等を通じてさまざまな業態で活躍されている先輩方のお話を伺ったり、信用金庫の支店を見学したりまた、有志を募って東日本大震災の被災地を訪れたりしました。私の主たる研究領域は「地域・中小企業・協同組織」金融ですが、現場に触れることによって、学生達の問題意識も発言内容もまさに一変し、若者の学ぶ力、成長力に驚かされることも少なくありません。

ここに教員としての喜びを感じるとともに、大学教育を通じた人間形成の重要性と責任の重さも改めて感じています。



ゼ

ミ

紹

介

村

松

ゼ

ミ

村松 幹二 (教授、法と経済学担当、2007年就任)

村松ゼミは、2007年にはじまり今年度で9年目になります。その間、多くの学生がともに現代の社会経済、特に企業活動と法・制度の関係を学ぶことで社会経済への理解を深め、日本と世界が抱えるさまざまな問題について考えてきました。

今年度は、2年生16人、3年生20人、4年生16人の計52人で活動しています。2年生は、まずミクロ経済学、ゲーム理論などの基礎的な分析手法を学び、それを用いて企業を取り巻くさまざまな経済関係、すなわち企業と消費者、企業と従業員、企業とライバル企業、企業と取引先などの関係を分析します。つぎに、これらの経済関係にかかわる法・制度の機能を経済学的に分析し、それらの知見を活かして、現代の日本経済の諸問題について考えます。3年生の後期から、各自がその問題意識に基づいてテーマを選び、関連する先行研究と資料を収集、整理、分析し、それを卒業研究論文としてまとめます。卒業研究論文をまとめた「ビジネス・エコノミクス論集」は昨年度までに第5号が刊行されました。

また、3年生からは就職活動の準備も並行して行い、企業研究、エントリーシートの添削や面接練習のほか公務員試験等の各種資格試験の対策もゼミ生で協力して行います。卒業生に各業界の実情を聞き、就職活動の相談をする機会も毎年数回設けています。

これまで6期90名が卒業し、金融、製造業、公務員など各業界で活躍しています。毎年11月に開催されるOB・OG会には多くの卒業生が集まります。卒業生の活躍を知ることは、教員としておおきな喜びであり、また現役ゼミ生には良い参考になると思います。他にも、ゼミ全体の活動として、ゼミ合宿、ソフトボール大会など勉強以外にもさまざまなイベントを通じて、卒業生を含め学年を越えてゼミ生の交流を深めています。



## 2014年度経済学部学生奨学論文の入選作

経済学部創立60周年記念行事の一環として始まった「経済学部学生奨学論文」では、昨年度も経済学部学生を対象に奨学論文を募集し、32編の応募がありました。経済学部学生奨学論文委員会と多数の経済学部教員が厳正な審査を行った結果、2014年度は以下のような審査結果となりました。

### <特選> 1編

齊藤龍馬(経3) 「アベノミクスにおける農業政策の検証～農業衰退の歴史的分析～」

#### □講評

本論文は、アベノミクスの農業政策がどのような結果を生むかを検証しようとした力作である。

第1章では、日本農業の衰退の原因が、自給率と関税、農産物貿易構造、農業保護の国際比較から検証されている。第II章は、「農協改革」「減反廃止」「アベノミクスにおける農業政策の検証」から構成されている。まず「農協改革」では、TPPに反対する農協の弱体化が狙いであるとされ、第二次大戦後、資本家が体制維持のために農協による農民組織化を追求してきたこと、しかし1970年代後半から対米貿易輸出を優先するために農民保護が後退していったことが指摘されている。次に「減反廃止」では、TPPによる関税撤廃に対応すべく、減反補償を廃止し、過剰な食用米から飼料・原料米への転換を行おうとする政策が志向されているが、この転換は困難で、直接支払いによる所得補償は財政的に無理であると指摘されている。最後に「アベノミクスにおける農業政策の検証」では、日本農業の衰退の根本原因がアメリカの食糧輸出体制への依存であることが喝破されている。さらに、TPPの下で高品質の日本農産品の輸出拡大が目指されているが、基本的に食糧についてはむしろ対外依存が強まり、自給率は低下することが指摘されている。以上の検証に加え、本論文では、こうした農業政策は、今後予想される世界の環境劣化、食糧逼迫の中では通用しないことから、関税と補助金による農業保護こそ必要であるとの代替案が示されている。

本論文は、日本国民が直面する大きな課題について論点を絞り、わかりやすい文章でまとめられている点でも評価できるものである。

### <入選> 4編

相田雄貴(現4)・浜田大豊(商4)・沖津敬祐(経4)・椎名佑季(経4)

「大都市型地場産業のプロダクト・イノベーションモデルの創出—東京・台東区を事例に—」

西本勇太(経4)・安西達哉(現4)・清水太陽(経4)・原田和育(経4)

「大企業と中小企業の知的財産交流がもたらす可能性—川崎地域を事例に—」

宮崎 景(商3)

「黒田日銀における異次元緩和の検証—金融政策の有効性とその限界—」

渡辺 諒(経4)

「1960年～1980年代におけるシンガポール国内企業の発展—外国企業との関係を中心に—」

### <佳作> 8編

露崎絢子(現4)・飯塚香織(経4)・池静子(経4)・瀧埜ひとみ(商4) 「地域活性化におけるアンテナショップの有用性に関する研究—福井県・石川県アンテナショップを事例に—」、小路哲平(経4) 「観光地経営組織(DMO)の設立とその役割の考察—地方都市におけるインバウンド観光の振興へ向けて—」、尾関佑太(商2) 「原発は『コミュニティ』を再生しうるか?—『コミュニティ』という分析視角でみた原発立地地域と補助金—」、齊藤宏明(経4) 「福島・沖縄から見るポストコロニアリズム」、岩瀬裕治(商3) 「アベノミクスにおける外国人材活用政策—人口減少社会の外国人労働者問題—」、在原和弥(現4) 「医療と観光の融合—メディカルツーリズムによる訪日外国人増加に向けて—」、高畑寛也(経3) 「『貯蓄から投資へ』—骨太の方針からアベノミクスへ—」、駒田敦士(経4) 「人口構造の変化からみた社会保障のあり方とその課題についての考察」

# 経済学部同窓会長賞の受賞者

平成26年度卒業式は本年3月25日におこなわれました。経済学科396名、商学科271名、現代応用経済学科150名、合計817名の卒業生が誕生しました。

経済学部同窓会は、在学中勉学に励み、人物にも優れた9名に賞状と記念品（万年筆）を授与しました。

受賞の誇りと自信をもって、今後は社会人として活躍されることを期待しています。

経済学科：	西村 拓毅	加藤 大翼	渡辺 諒
商学科：	三浦 遥香	吉本 今日子	福村 侑香
現代応用経済学科：	安西 奈々	露崎 絢子	相田 雄貴



経済学科・西村拓毅さん



経済学科・加藤大翼さん



経済学科・渡辺 諒さん



商学科・三浦遥香さん



商学科・吉本今日子さん



商学科・福村侑香さん



現代応用経済学科・安西奈々さん



現代応用経済学科・露崎絢子さん



現代応用経済学科・相田雄貴さん

## ホームカミングデー・プログラム

### ホームカミングデー開催日：10月25日(日)

(今年から開催日が10月最終日曜日に変更になります)

ホームカミングデーは卒業生を母校に迎え、駒澤大学の現状を見ていただき、卒業生、教職員、在校生の親睦と交流をはかる催しです。

ホームカミングデーでは例年1000人を超えるたくさんの卒業生が母校を訪問し、大きな盛りあがりが見られますが、参加者で最も多いのは商経学部・経済学部の卒業生です。

今年は2人の経済学部教員による「やさしい経済学」の講義もありますのでぜひご参加ください。

ホームカミングデー受付の隣に経済学部同窓会専用のブースを設け、経済学部同窓会活動を紹介し、経済学部の資料を配付しています。経済学部同窓会は商経学部・経済学部のすべての卒業生に開かれたオープンな組織です。

今年もホームカミングデーに集まり、旧交を温めようではありませんか。

- 10時20分 開会式
- 10時40分 学生団体による演奏・演武等
- 11時15分 特別ゲストによる落語会
- 11時30分 統一テーマ「やさしい経済学」
  - 11時30分～12時 増田 幹人(経済学部専任講師)「人口減少と地方創生」
  - 12時～12時30分 村松 幹二(経済学部教授)「法と経済」
- 総合司会 谷敷 正光(経済学部教授)

## 同窓会事務局からのお知らせ

### 年会費・寄付金のお礼

平成27年度会費の納入にご協力のいただき心より御礼申し上げます。また、きびしい財政状況をご理解いただき、125名(平成27年6月26日現在)の会員から寄付金が寄せられました。ご支援に深謝し、今後とも同窓会の発展にお力添えくださいますようお願い申し上げます。

### 同窓会組織の強化にご協力ください

同級生、ゼミやサークルの仲間、地域のお知り合いで「経済学部同窓会」に加入していない方がおられましたらご紹介ください。未加入の方に事務局から入会案内をお送りします。

### 「こまざわ経済通信」の原稿募集

同窓会報の充実のため原稿を募集しています。積極的なご投稿をお願い致します。

- ・ 論題：自由
  - ・ 字数：800字以内
  - ・ 送付先：駒澤大学経済学部同窓会事務局(下記)
- 原稿の採否は事務局にご一任ください。

### 経済学部同窓会のホームページがリニューアルされました

同窓会のホームページに次のようにアクセスできます。

駒澤大学のホームページ(TOP) → 学部・大学院 → 経済学部 → 学部・学科・研究科作成のページ → 経済学部同窓会

### 役員を募集しています

ボランティアで同窓会の仕事をしていただける方を募集しています。軽い仕事なのでご負担になることはありません。仲間と楽しみながら、同窓会と経済学部の発展ために貢献できます。有志の方は事務局までご連絡ください。

### 経済学部同窓会事務局(経済事務室内)

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
電話：03-3418-9343